

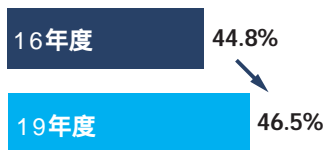
子供・若者インデックスボード ver.2.1

子供・若者の意識（出典 内閣府「子供・若者の意識に関する調査」）

1. 自己について

自己肯定感

今の自分が好きだ



自己有用感

自分は役に立たないと強く感じる



今の充実感

今の生活が充実している



将来への希望

自分の将来について明るい希望を持っている



13年度については、内閣府「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」の数値

チャレンジ精神

うまくいくかわからないことにも意欲的に取り組む



社会貢献意欲

社会のために役立つことをしたい



詳細は、内閣府ホームページ（<https://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/ishiki/r01/pdf-index.html>）参照

2. 周囲について

居場所 次の場所が、ほっとできる場所、居心地のよい場所等になっている

自分の部屋



家庭

(実家や親族の家を含む)



学校

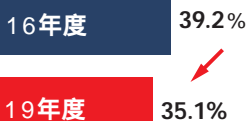
(卒業した学校を含む)



地域



職場

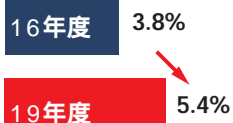


インターネット空間



どこにも居場所がない

(上記のいずれも居場所になっていない)



相談できる人 次の場所に、何でも相談できる人がいる

家庭

(実家や親族の家を含む)

16年度 59.8%

19年度 58.8%

学校

(卒業した学校を含む)

16年度 57.7%

19年度 57.7%

学校で出会った友人についての質問

地域

16年度 18.2%

19年度 18.5%

職場

16年度 31.1%

19年度 33.6%

インターネット空間

16年度 21.3%

19年度 23.7%

どこにも相談できる人がいない

(上記のどこにも何でも相談できる人がいない)

16年度 23.1%

19年度 21.8%

助けてくれる人 次の場所に、困ったときに助けてくれる人がいる

家庭

(実家や親族の家を含む)



学校

(卒業した学校を含む)



学校で出会った友人についての質問

地域



職場



インターネット空間

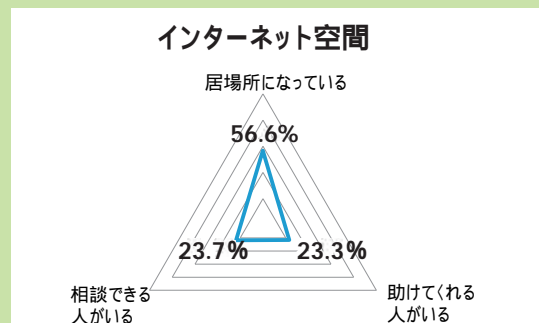
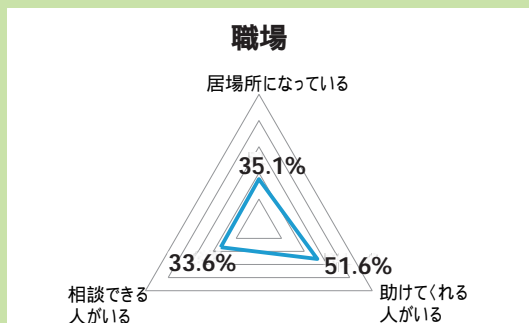
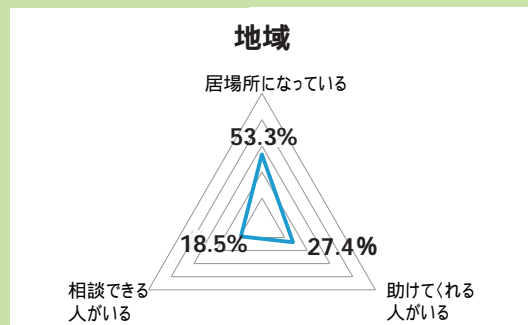
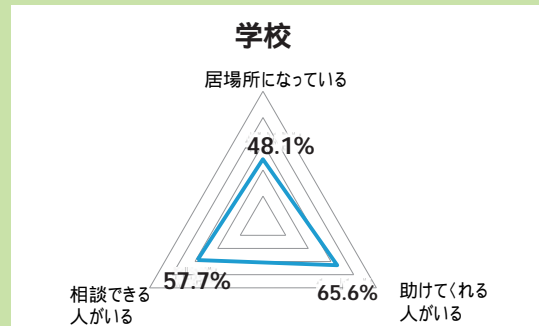
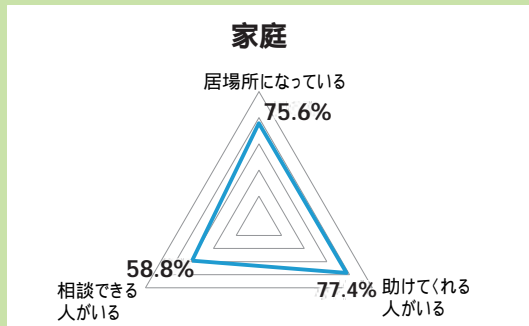


どこにも助けてくれる人がいない

(上記のどこにも助けてくれる人がいない)



場ごとの認識



19年度のデータ

人との関わり

親子関係

自分の親（保護者）から愛されていると思う

19年度 73.7%

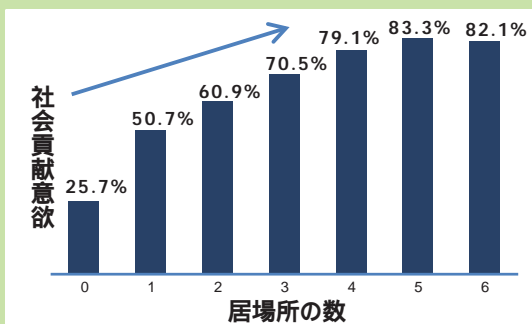
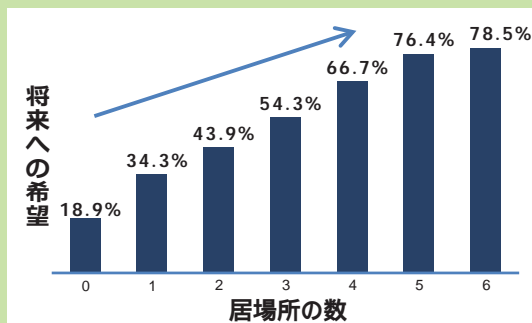
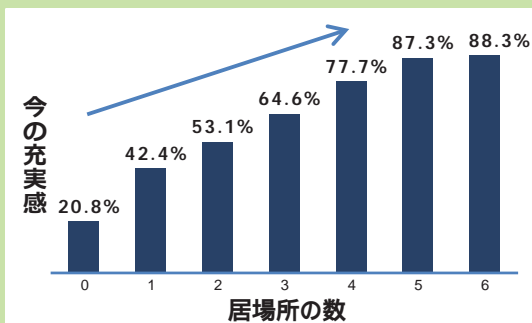
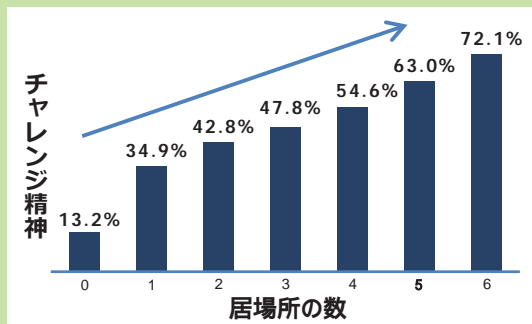
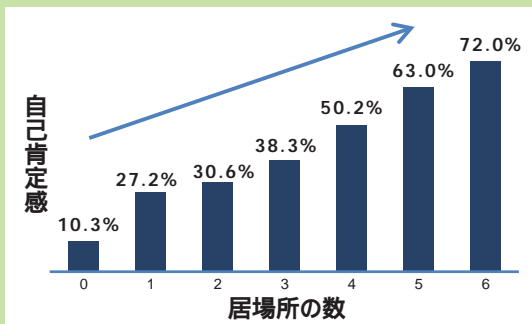
対人関係

誰とでもすぐ仲良くなれる

16年度 43.0%

19年度 43.0%

居場所の数と自己認識の関係

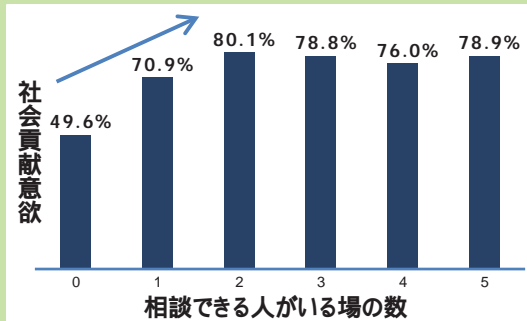
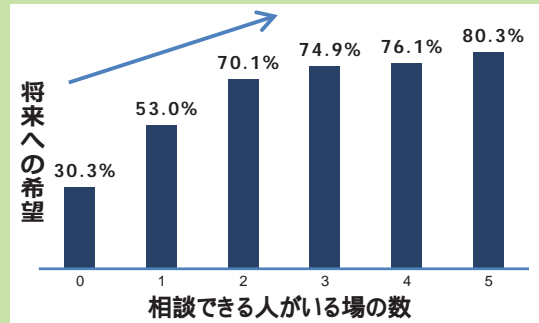
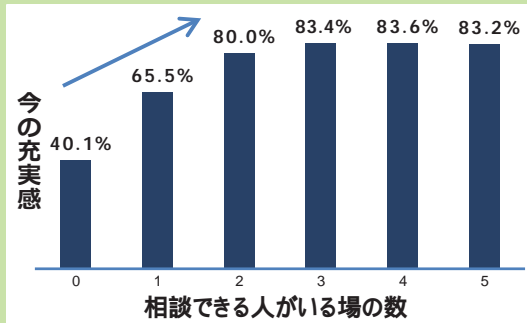
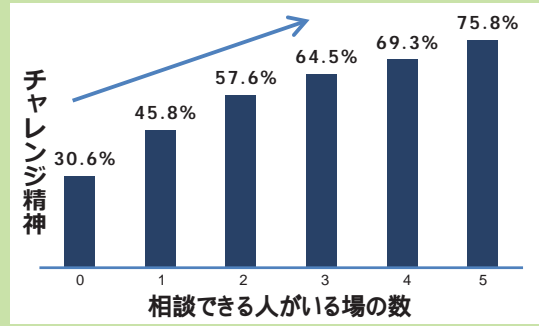
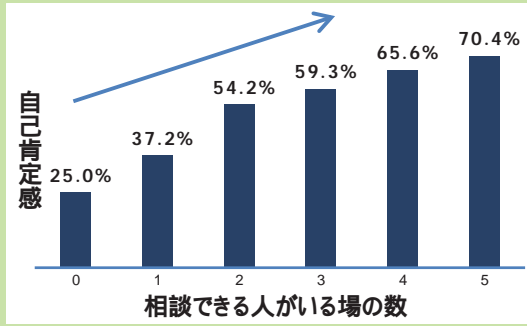


19年度のデータ



居場所の数（自室、家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、概ね相関。

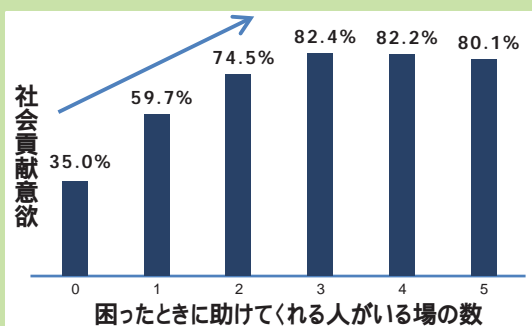
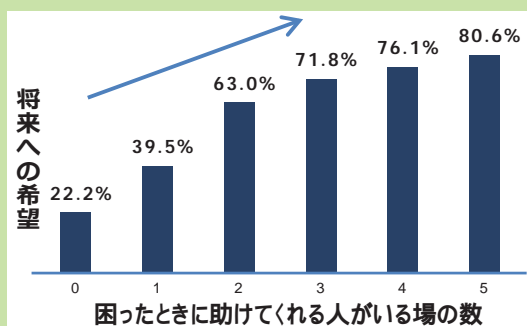
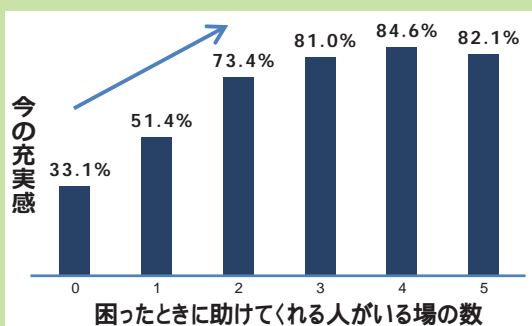
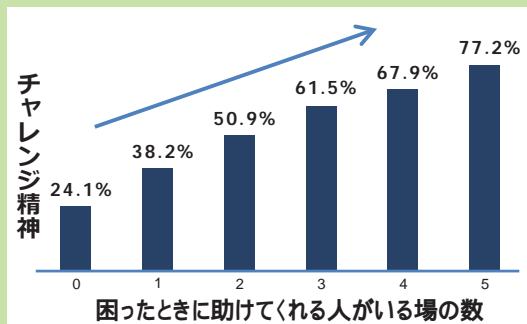
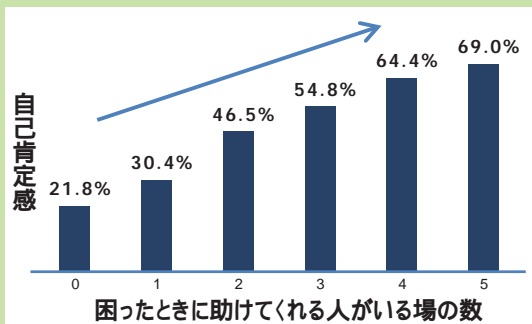
相談できる人がいる場の数と自己認識の関係



19年度のデータ

相談できる人がいる場（家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、概ね相関。

困ったときに助けてくれる人がいる場の数と自己認識の関係



19年度のデータ



困ったときに助けてくれる人がいる場（家庭、学校、地域、職場、インターネット空間）の多さと自己認識の前向きさは、概ね相関。

3. 支援について

困難経験

社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験があった



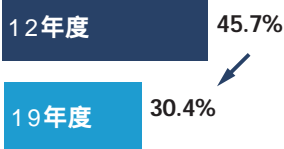
困難改善経験

の状態が改善した経験があった



役に立った支援

受けた支援に効果があったものはない



支援機関の認知度

知っている機関 はない



児童相談所、ハローワーク、児童館、教育相談所等

支援機関の利用希望

利用したいと思わない

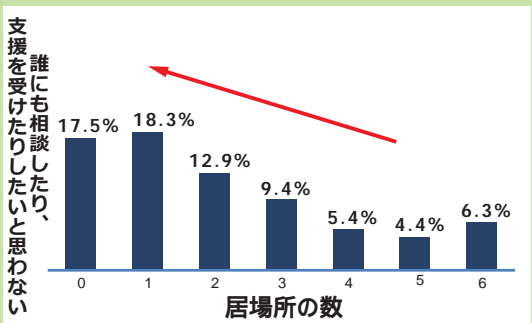
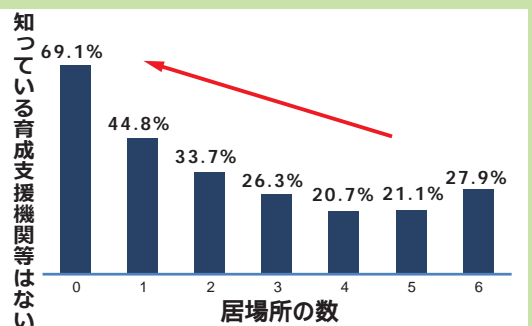
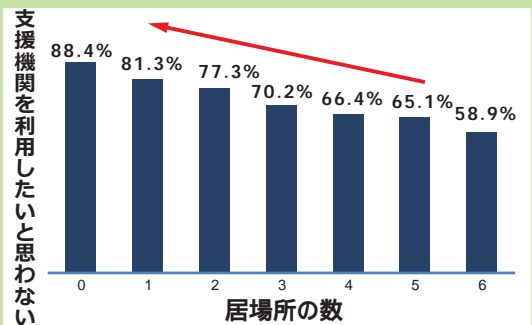
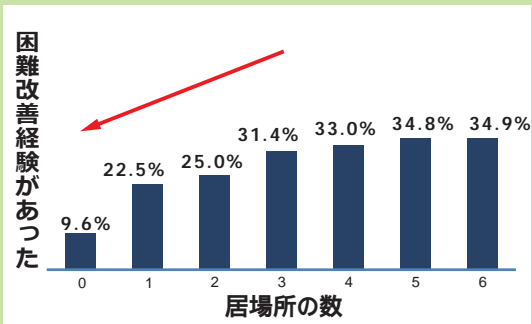


相談・支援の希望

誰にも相談したり、支援を受けたりしたいと思わない



居場所の数との関係



19年度のデータ

居場所の数が少ない人ほど、困難な状態が改善した経験が少なく、支援希望や支援機関の認知度等も低い傾向がある。